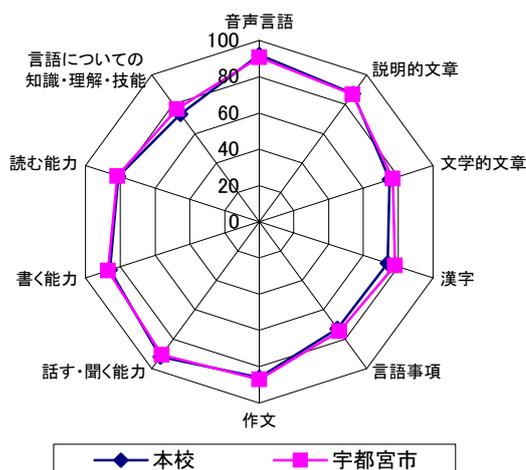


宇都宮市立宝木小学校第4学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	音声言語	92.0	90.7
	説明的文章	87.2	86.7
	文学的文章	74.9	76.7
	漢字	73.9	78.1
	言語事項	72.8	74.6
	作文	85.9	86.9
観点別	話す・聞く能力	92.0	90.7
	書く能力	85.9	86.9
	読む能力	81.1	81.7
	言語についての知識・理解・技能	73.5	76.7



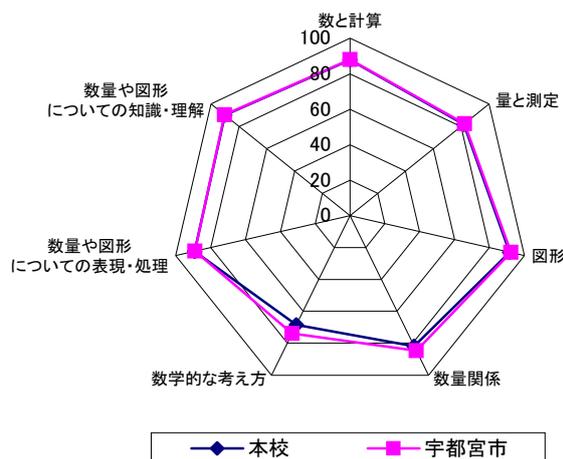
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (92.0%)	・平均正答率は、市を上回っている。内容を正しく聞き取ることはできているようだが、話し方の工夫を指摘する問題に対しては、誤答が多かった。話題に沿った質問をすることは市の平均を上回っていた。	・各教科の授業や日常生活において話しを聞くことに重点をおいてきたが、聞き取った内容から自分の考えと比べたり、質問したりできるようにさらに支援していく。また、話し方にも着目させ、どんな風に話すと聞き手に分かりやすいかなどを考えさせるようにする。
説明的文章 (87.2%)	・平均正答率は、わずかに市を上回っている。昨年度と比べても平均正答率は高くなっている。文章全体の内容は理解しているが、指示語の内容の理解や文脈に即した内容の理解について誤答が多かった。	・国語の説明文の学習で、筆者の意図をきちんと読み取らせる。説明文の形式についても理解させる。また、接続語や指示語に着目させて、文章のどの部分を指しているのかなど、文脈にあった内容を考えさせるようにしていく。
文学的文章 (74.9%)	・平均正答率は市を下回っている。特に、文脈に沿った語句を補充する問題や、登場人物の心情を読み取る問題の正答率が低かった。話題が変わる段落を指摘する問題は、市の平均とほぼ同じであった。	・国語の物語の学習では、文章に沿って考える習慣をつけるとともに、登場人物の心情を読み取らせる。ふきだしに登場人物の気持ちを書き込ませたり、動作化したりする活動を取り入れる。読書活動を多く取り入れ、読書会などの時間も設けたい。
漢字 (73.9%)	・平均正答率は市の平均を下回っている。4年生で習った漢字、3年生で習った漢字に関わらず普段あまり使われていない読みや書きの問題での誤答が多かった。	・漢字の学習では、習った漢字をただ練習するのではなく、熟語を調べたり、辞書を活用して意味を調べたりして多くの漢字の使い方について学ばせる。また、成果を確認できるように小テストを実施し、繰り返し定着を図る。
言語事項 (72.8%)	・平均正答率は市の平均をやや下回っている。漢字の画数やローマ字の書き方は理解している。しかし、主語述語の関係や句読点を打つ箇所の誤答が多かった。	・文章を音読するときに句読点を意識させたり、句読点の位置によって意味が異なる事例を示したりして習熟を図る。また、文章を書くときに主語、述語を意識させるようにしたり、文法の練習問題を行ったりして定着を図る。
作文 (85.9%)	・平均正答率は市の平均をわずかに下回っている。礼状の書き方の形式について理解しているが、「終わりのあいさつ」を入れて書くことについて平均を下回っていた。	・お世話になった人への手紙を書く機会を設け、形式を理解させながら、適切な内容の手紙が書けるように指導していく。

宇都宮市立宝木小学校第4学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	数と計算	87.8	87.9
	量と測定	81.9	82.4
	図形	91.5	92.2
	数量関係	81.9	84.7
観点別	数学的な考え方	68.3	73.7
	数量や図形についての表現・処理	89.1	89.1
	数量や図形についての知識・理解	90.2	90.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算 (87.8%)	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は市とほぼ同等である。整数のわり算の筆算や小数の表し方の設問は市の平均を上回っている。しかし大きな数を10倍する設問につまずきが見られ、十進位取りの仕組みを理解していない児童が市平均より大きく下回っている。記述問題でのわり算の文章題もつまずきが見られ、市平均を下回っている。繰り上がりや繰り下がりのある小数のたし算ひき算の誤答が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は基礎・基本を充実することをねらい、コース別学習でかけ算やわり算を中心に学習してきた。また計算力テストを定期的に行ったことの結果がみられる。しかし文章題など数学的考え方や知識理解が市平均より下回っているため、今後は文章問題を多く取り組ませ、文章題の定着を図る。
量と測定 (81.9%)	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は市とほぼ同等である。角の大きさを求める設問では分度器を正しく使えず読み取ることができず誤答が見られた。しかし、2まいの三角定規の角度を求める問題の正答率は、市平均よりも上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 分度器の使い方に慣れ、正しく目盛りを読めるようにするとともに、角の大きさを直観的にとらえるようにする。 今後も三角定規の内角の特徴に関心を持たせ、計算で角度を求める問題に取り組みさせる。
図形 (91.5%)	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は市とほぼ同等である。平行四辺形の性質はよく理解して正答率が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 平行や垂直の意味はよく理解しているため、今後も児童の活動を多く取り入れ定着を図っていく。
数量関係 (81.9%)	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算の順序や四則混合の式を立てる数学的な考え方につまずきが大きくみられたため市平均よりも大きく下回った。折れ線グラフでは数量の変化をグラフに活用する設問に誤答が見られ、市平均より大きく下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 移行措置期間の新しい内容の「計算のきまりと関係」で難易度が高いため、定着するには繰り返し指導する必要がある。また数多く問題を解かせていく。 グラフのよさに気づかせ、活用場面を与え、具体的・体験的に他教科においても指導する。